



シンポジウム「難波宮」

もくじ

- | | |
|--|--|
| <p>P. 2 ● 就任の辞
● ドイツの展覧会に資料出展
● 平成15年度刊行図書</p> <p>P. 3 ● 新職員の紹介
—平成16年度人事異動—
● 平成16年度文化財講座始まる
● 評議員会・理事会</p> <p>P. 4 ● シンポジウム「難波宮」, 「大坂城」
● 郷土の文化財を見学する会
● ミニ講座</p> <p>P. 5 ● 民家博・弥生学習館との共催ツアー
● 韓国の研究者が来訪</p> | <p>● 共同研究
● 出前授業</p> <p>P. 6 ● 平成16年度春季の現地公開
* 禁野本町遺跡
* 上の山遺跡
* 上の山遺跡現地公開に参加して</p> <p>P. 7 ● トピックス
* 讃良郡条里遺跡出土の鳥形土製品
* 檀波羅密寺の文字瓦</p> <p>P. 8 ● 弥生文化博物館 夏の展示ご案内
● 近つ飛鳥博物館 夏の展示ご案内
● 日本民家集落博物館 催しご案内</p> |
|--|--|

就 任 の 辞

専務理事兼事務局長 鳴 澤 成 泰



7月1日付けで専務理事兼事務局長に就任しました。4月1日に事務局長として赴任しましたので、もう3ヶ月たったというのが実感です。この間発掘調査現場や文化財講座、博物館などいろいろな現場を見せていただきました。

当センターは2度の法人統合を経て発掘調査、普及から博物館まで文化財に関する幅広い分野を網羅しています。最後の統合から2年余り、統合の効果はどうでしょうか。

経費の節減や合理化は当然統合の効果として期待されます。しかし本当に求められるのは、統合によって新たな価値を創造していくことではないかと考えています。個々ではできなかったような活動ができるようになること、新たな展開を図れること、それが重要です。

財源の制約、マンパワーの問題、運営形態の違いなどいろいろの壁が邪魔をしますが、その中でひとつの組織として運営を工夫し、事業の発展を図らなければなりません。

府立博物館2館は現在委託で経営しており、予算や職員もすべて府で措置され、料金等運営の骨格も府が条例で定めているため、弾力的に運用すべき余地はありません。しかし、地方自治法の改正により、指定管理者制度が創設され、現在委託を受けている施設も経過期間において指定管理者制度に移行します。一定の枠の中で自由に事業を行うことができる反面、成果に対する責任が問われることになります。博物館の使命と現在の水準を守り発展させることはできるのか。外部からの民間参入が可能な状況の中で勝ち抜けるのかどうか。状況は厳しいですが、夢を持って取り組む値打ちのある課題であり、取り組み如何でセンターの将来の姿が変わるかもしれません。

発掘の事業では急激な事業量の増加を、事業者の要請に応えつつ、充実した内実のある調査を、将来の事業量の状況を見据えながら進めていくという、職員の皆さんには大変ご苦労を強いている状況にあります。しかし、ここを乗り越えれば、全国でも例のない大規模な発掘調査の成果を世に問い、センターの実力を示す絶好の機会です。ピンチのあとにはチャンスあり。むつかしい時期こそ新しい発展のチャンスでもあります。共にがんばりたいと思います。

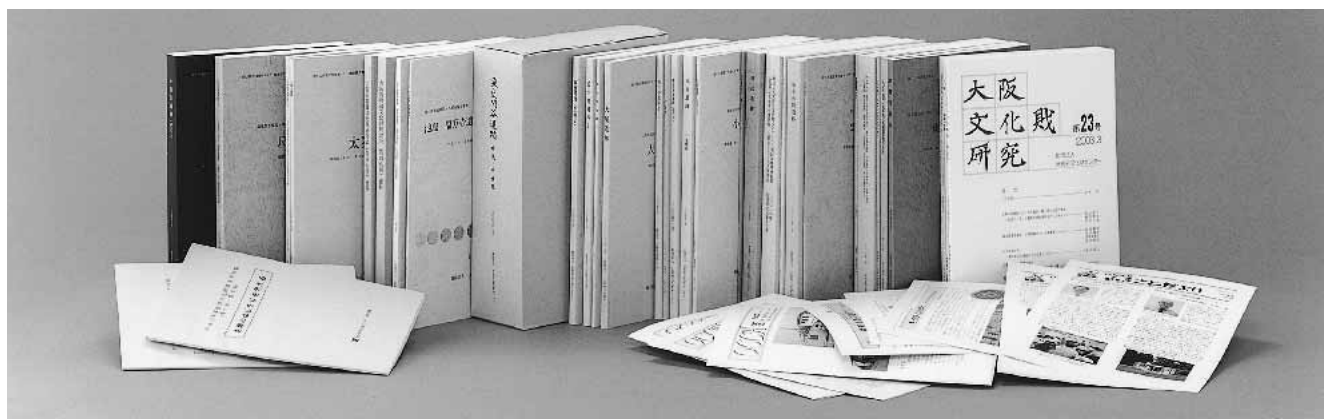
ドイツの展覧会に資料出展

文化庁からの依頼を受けて、本年7月から来年1月までドイツ連邦共和国マンハイムのライス・エンゲルホルン博物館と同ベルリン所在のマルチン・グロビウス・パウで開催される「日本の考古—曙光の時代—」展（仮称、文化庁主催）に、当センターが保管中の東大阪市巨摩遺跡2号方

形周溝墓から出土した碧玉製耳飾や、堺市大庭寺遺跡から出土した初期須恵器等計9点を出展することとなった。

これらの資料は、発掘以来、多くの展覧会に出展されているが、海外での展示は初めてのことである。

平成 15 年 度 刊 行 図 書



新職員の紹介 —平成16年度人事異動—

今年度は、第二京阪道路建設に伴う発掘調査の拡充により京阪支所→京阪調査事務所へ、また、池島・福万寺遺跡の調査の継続が決まり池島分室→池島支所へ等の組織変更があった。

退職者

中山 重光（専務理事兼事務局長）6月退職
玉崎 勝治（近つ飛鳥博物館副館長）府へ復職／定年退職
府等への復職者
奥野 一仁（総務係長）府へ復職
橋本 高明（南部調査事務所調査第一係長）府へ復職
吉村 正親（京阪支所調査第二係主査）（財）京都市埋蔵文化財研究所へ復職
杉本 厚典（京阪支所調査第一係技師）（財）大阪市文化財協会へ復職
西大條 哲（交野分室調査第四係技師）（財）京都市埋蔵文化財研究所へ復職
小谷 太（南部調査事務所主任主事）（財）大阪府青少年活動財団へ復職
田中 和弘（近つ飛鳥博物館学芸課長）府へ復職
三木 弘（弥生文化博物館部学芸員）府へ復職
永島 純一（近つ飛鳥博物館専門員）府へ復職

新たな役職員

白石太一郎（近つ飛鳥博物館館長）

新たな派遣役職員

鳴澤 成泰（事務局長・7月から専務理事）府から派遣
藤川 保（総務係長）府から派遣
泉本 知秀（京阪調査事務所主査）府から派遣
大楽 康宏（京阪調査事務所主査）府から派遣
松本 啓子（京阪調査事務所調査第一係主査）（財）大阪市文化財協会から派遣
森井 貞雄（交野分室調査第四係主査）府から派遣
黒田 慶一（南部調査事務所調査第一係主査）（財）大阪市文化財協会から派遣
朝間 理恵（総務係主事）府から派遣
近藤 章子（京阪調査事務所調査第二係技師）（財）京都市埋蔵文化財研究所から派遣
加納 敬二（京阪調査事務所調査第二係技師）（財）京都市埋蔵文化財研究所から派遣（7月から）
小倉 徹也（京阪調査事務所調査第三係技師）（財）大阪市文化財協会から派遣
田中利津子（交野分室調査第四係技師）（財）京都市埋蔵文化財研究所から派遣
池田 研（南部調査事務所調査第一係技師）（財）大阪市文化財協会から派遣
山田 隆一（弥生文化博物館学芸員）府から派遣
福井 克次（近つ飛鳥博物館副館長）府から派遣
藤永 正明（近つ飛鳥博物館学芸課長）府から派遣
藤井 雅乗（近つ飛鳥博物館専門員）府から派遣
小浜 成（近つ飛鳥博物館学芸員）府から派遣

嘱託員

鹿野 塁（京阪調査事務所調査第三係）
永野 仁（京阪調査事務所調査第三係）
正岡 大実（南部調査事務所調査第二係）
峠 美穂（普及部企画普及係）

専門調査員

赤塚 亨（京阪調査事務所調査第一係・讃良郡条里遺跡5）
和田一之輔（京阪調査事務所調査第三係・讃良郡条里遺跡9）
矢倉 嘉人（交野分室調査第四係・上の山遺跡）
山田 浩史（交野分室調査第四係・私部南遺跡）
遠藤 啓輔（交野分室調査第五係・有池遺跡2）
岡本 智子（交野分室調査第五係・有池遺跡3）
岩立 美香（中部調査事務所・保存処理）
鬼頭 彰（池島支所・弓削ノ庄遺跡）
中川 二美（池島支所 5月31日退職）
内田 真雄（南部調査事務所調査第一係・松原遺跡群、池上曾根遺跡）
進藤 智美（古市分室調査第二係・八尾南遺跡）

〔2004年7月現在〕

平成16年度文化財講座始まる

開講以来32年目の今年度の文化財講座は、平成11年度に続き『日本の海外考古学調査part2』という全体テーマで構成。前回から5年が経過しているが、その間にも中国、西アジアの国々等世界各地で共同調査・世界遺産の保存修復等に積極的な参加協力がなされており、担当された方々にお話いただく。中国唐長安城大明宮太液池、カンボジアアンコール遺跡群、龍門石窟、韓国の戦前の発掘調査、河南省鞏義市唐三彩窯址、ロシアサハリン島白主土城、エジプトアコリス、シリアパルミラ、イタリアカッツァネッロ、イスラエルエン・ゲヴ等の10本である。

エル・おおさか南館1023号室を会場として、5月～2月の第3木曜日（10月のみ第3水曜日）午後6時30分～8時までの講義である。今回は176名の申込があり、最終157名の会員で実施している。

評議員会・理事会

平成16年6月28日（月）府教育会館（たかつガーデン）で平成16年度第1回評議員会・理事会が開催され、平成15年度事業報告及び収支決算並びに平成16年度補正予算（案）を審議し、原案どおり承認された。

なお、評議員会・理事会において、（財）大阪府文化財センターの中山重光専務理事が平成16年6月30日付けで退任され、後任として同センターの事務局長の鳴澤成泰氏が選任された。

また、理事会において、辞任された評議員南場賢一郎氏の後任に、りそな銀行公務部長の堤一郎氏が選出された。
〔任期 自平成16年6月28日 至平成17年6月25日〕

シンポジウム「難波宮」,「大坂城」

6月12日と20日に大阪歴史博物館において開催したシンポジウムは、参加者が12日「難波宮」約450名、20日「大坂城」約430名と、予想を上回る反響がありました。両日も立ち見が出る状況で、発表要旨集も完売、両日も好評・盛況のうちに終了しました。

12日は朝から小雨で、参加者が少なくなるかと懸念されましたが、11時頃から徐々に人が集まりはじめ、12時半ころにはすでに講堂は満席、モニター室も急遽椅子を追加するほどでした。基調講演は、研究史（中尾芳治先生）にはじまり新発見の報告（江浦洋班長）、それにもとづく新知見（古市晃学芸員）、まとめ（水野正好理事長）と、ストーリーがわかりやすく進行しました。水野理事長はもちろんのこと、江浦班長のご講演はたいへんわかりやすく、会場から頻繁に笑いを得ておられました。討論では、基調講演を補足しさらに展開させる活発な討論となりました。

20日は、台風の前日ですでに蒸し暑い日でした。前回に比べ出足が早く、11時半にはエスカレーターホールに列ができました。「難波宮」より若い人が多く見られたように思います。基調講演は、まず新発見の報告（島内洋二専門調査員）、その発見をめぐっての私説の披露（松尾信裕氏・中村博司館長）、大坂についてのまとめ（脇田修理事長）、という流れで進みました。島内専門調査員は、大舞台での発表ははじめてということでしたが、新発見の堀は三ノ丸の堀と主張されるなど、堂々たるご発表でした。討論では三ノ丸を中心に豊臣期大坂城の構造について、松尾氏と中村先生のご意見を中心に展開しました。

なお、両日も関係出土品数十点を展示しましたが、ほぼ参加者全員にご見学いただけたようでした。

両日も参加者にじゅうぶん楽しんでいただけたようで、担当者の一人としてたいへんうれしく思います。

運営に際しましては、(財)大阪市文化財協会、大阪歴史博物館の職員のかたがたに、多数ご協力いただきました。ここに記して深謝いたします。(峠 美穂)



島内専門調査員の講演

郷土の文化財を見学する会

第1回例会は4月18日（日）に泉佐野市の町場を歴史館いずみさの前館長樋野修司氏と熊野街道沿いの史跡を同館学芸員森昌俊氏の解説を聞きながら見学しました。

樋野氏には泉佐野が何時頃から町場として整備され、発展していったかを詳細に熱弁していただきました。午後は郊外を歩き、歴史館いずみさのにて農村地区、中世日根荘の泉佐野を概観した後、近世以降の豪農である新川家の見事な邸宅や、上町遺跡、佐野王子などを見学しました。

第2回例会は5月9日（日）に池田市を訪れました。NHKの番組「てるてる家族」で有名となった当地ですが、中世に池田氏が開発し、近世では町場として、呉春などの文人が集った地として知られます。池田市教育委員会の中西正和氏、池田市立歴史民俗資料館の田中晋作氏に町が成立する過程を説明していただきました。池田城跡公園でも説明を受けました。逸翁美術館では小林一三収集の館蔵品を理事・事務局長亀井敏郎氏の説明で見学しました。

第3回例会は6月13日（日）に堺市の百舌鳥古墳群の東部地域を講師堺市教育委員会森村健一氏とともに歩きました。快晴の中、総勢106人もの参加があり驚きました。

氏には、同古墳群の成立から展開のほか、古墳の造営が終った後の変遷、濠池や森林の活用なども語られました。

氏の大胆な仮説に対し、会員の皆さんも知的好奇心を触発され、質疑が活発に行われる楽しい見学会となりました。

ミニ講座

池上曾根史跡公園協会とセンターとの共催事業であるミニ講座《フォーラム》匠の世界－日本の伝統技術は 今－は、平成15年度に続き2年目になるが、今年度は紙漉き・文化財の修復・織物の世界でそれぞれの伝統技術を守って今に継承している匠の方々を4回シリーズで紹介。弥生学習館を会場として午後1時30分～4時30分まで開催、ゲストの講師の方と其々40分の講演の後、対談を行った。会場には、其々の匠の技に関連する資料を展示し、技の理解に供した。56名～89名の参加（延べ301名）があった。

第1回 5月9日（日）生漉き奉書

岩野市兵衛氏（9代目・人間国宝）

八木米太郎氏（西宮市市議会議員・岩野市兵衛氏の先代に師事）

第2回 5月30日（日）名塩紙（兵庫県無形文化財）

谷野 武信氏（人間国宝）

柳橋 真氏（金沢美術工芸大学大学院教授）

第3回 6月6日（日）装潢

岡 岩太郎氏（装潢師・岡墨光堂社長）

河田 昌之氏（和泉市久保惣記念美術館館長）

第4回 6月13日（日）丹波布（国の記録すべき無形文化財・兵庫県の伝統的工芸品）

足立 康子氏（丹波布復原者）

富山 弘基氏（(株)染織と生活社取締役）

民家博・弥生学習館との共催ツアー

日本民家集落博物館との共同企画、(株)阪急交通社主催で「民家集落ツアー」を、池上曾根史跡公園協会との共同企画、(株)国際交流サービス社主催で「史跡ツアー」を昨年度に続き、それぞれ2回目を行った。

民家集落ツアーは「九州椎葉紀行ひむか神話街道の旅」と銘打ち、16名の参加者と共に6月25日(金)早朝の伊丹空港を熊本空港へ飛び立った。熊本空港から、中型の観光バスで、白川水源を経て宮崎県高千穂へ赴いた。白川水源や高千穂峡の豊かな自然に驚愕し、天岩戸神社や高千穂町歴史民俗資料館では、神話の里の豊かな文化も知ることができた。夕方には椎葉村へ到着し、椎葉民俗芸能博物館で夜神楽を観賞した。

2日目は早朝に椎葉村の伝統家屋が残る十根川集落を廻った後、先日の芸能博物館の民俗資料を見学した。午後は西都原古墳群の宮崎県立西都原考古博物館にたちよった後、宮崎空港から大阪へ帰還した。いずれも当地の研究者に現地解説していただき、考古学や民俗学関係の生の文化財に触れることのできた楽しく、有意義なツアーであった。

史跡ツアーは「播磨・但馬に古代遺跡をたずねて」と銘打ち、44名の参加者が、大型観光バスに乗りこみ、6月30日(木)に、播磨大中遺跡、兵庫県立歴史博物館、船宮古墳を、7月1日(木)に、豊岡市出土文化財管理センター、いずし古代学習館、但馬国分寺跡、箕谷古墳群、大藪古墳群、和田山町立郷土歴史館、城ノ山古墳、池田古墳、茶すり山古墳を2日間にわたり見学した。盛り沢山の見学で、次ぎから次ぎへと移動を繰り返したが、見学地の先々で当所にて活躍される研究者から遺跡、史跡に対する、熱心で詳細な説明を受け、参加者からも質問が飛び交う、充実した内容となり、播磨や但馬の古代の様相が良くわかり、参加者は一様に満足されたと思われる。

韓国の研究者が来訪

2月13日、奈良文化財研究所が招請中の国立慶州文化財研究所の尹光鎮所長をはじめ、同研究所学芸研究士の金教年氏と崔仁華氏および奈良文化財研究所の渡辺丈彦氏等が、当センター本部事務所と発掘調査中の八尾南遺跡を訪れた。2月20日・21日には、趙榮濟、柳昌煥氏(慶尚大学校)、鄭基鎮氏(光州広域市立民俗博物館)、河承哲氏(慶南発展研究院歴史文化センター)が八尾南遺跡と大阪府警察本部建設予定地の発掘でみつかった難波宮関係遺跡の現地説明会々場を訪れた。2月25日には、畿甸文化財研究院の金瑩和、丁海得、鄭相石、崔喆熙、蔡正珉氏が当センター中部調査事務所および大阪府警察本部と八尾南遺跡の発掘現場を訪れた。3月25日には、国立歴史民俗博物館に滞在中の韓盛旭氏が中部調査事務所を訪れた。これらの人達の中には先刻面識のある人もいて、旧交を暖めたことであった。

共同研究

2002年4月1日、財団法人大阪府文化財センターとして新たな歩みを始めるに際し、センター部と博物館部[日本民家集落博物館(以下民家博)・大阪府立弥生文化博物館(以下弥生博)・大阪府立近つ飛鳥博物館(以下近つ博)]との共同事業のひとつとして、共同研究がスタートした。共同研究は、センター部も各博物館も多忙をきわめる中、職員の一層の資質の向上を目指し、調査研究・展示公開事業のますますの隆盛を図るべく企画された。

2002年度は、民家博「住居に関する総合的研究」、弥生博「弥生時代のはじまり」、近つ博「『河内名所図会』にあらわれた遺跡の研究」をテーマに、6名の外部研究者を含む20名がメンバーとして参加し、研究者向け発表会や一般向け発表会が行われた。その成果が、多くの写真や図表を含む324ページに及ぶ『2002年度共同研究成果報告書』として刊行された。

2003年度は、民家博ではテーマを「住居に関する総合的研究(2)」とし、外部講師として椎葉民俗博物館の永松敦氏を、弥生博ではテーマを「北の文化―続縄文の世界―」とし、外部講師として北海道開拓記念館の右代啓視氏、また近つ博ではテーマを「墳墓と墓誌」とし、外部講師として富山大学の黒崎直氏と大阪府教育委員会の小林義孝氏を招聘した。

2002年度・2003年度の共同研究を受けて、各博物館の翌年度の春の特別展に成果が反映され、参加研究者の力量のアップだけではなく、各博物館の展示公開事業に貢献でき、共同事業の当初の目的を達成した。

なお、2004年度はテーマ(仮題)を、民家博「住居に関する総合的研究(3)」、弥生博「東海地方の弥生文化の研究」、近つ博「古墳時代中・後期における金工製品の生産組織と体制」として共同研究がスタートした。

出前授業

5月11日(火)に、泉北の堺市立晴美台小学校へ普及部の福岡部長が出向き講演し、奈良県の大和郡山市立片桐小学校では調査部の江浦班長が体験学習を指導した。

晴美台小学校では、6年生の歴史授業の地域学習の一環として、地域の歴史を学び郷土を知るといふねらいで、3・4時限目の授業として実施された。子供たちは「蘇る手工業集団」というビデオを見た後、復元された須恵器や土師器に触れながら、地域の歴史に耳を傾けていた。直近に行われた陶器山への遠足でひろった須恵器の破片が、6世紀代のものとわかると歓声を上げていた。

片桐小学校では、総合的学習の一環として考古学の体験学習が6年生を対象に実施された。当日は弥生時代人や古墳時代人に扮した職員や先生が登場し、子供たちは縄文時代から古墳時代にかけての様子について話を聞き、実物の土器や石器に触れ、土器パズルや火起こしを体験するなどの学習をした。

(山岡平和)

平成16年度春季の現地公開

禁野本町遺跡

日清戦争が始まった1894（明治27）年、軍備拡充を進めた旧日本陸軍は淀川の左岸段丘上の用地買収に着手し、現在の枚方市禁野本町一帯に禁野火薬庫を建設した。その後、2度の爆発事故を経て1945（昭和20）年まで操業した。

今回の発掘調査では、1939（昭和14）年3月1日の爆発事故以前の火薬庫とそれらを取り巻く石積み遺構、そして火薬庫内の物資運送のために敷設された軽便軌道跡とコンクリート製枕木を良好な状態で検出した。そこで3月27日に現地説明会を開催し、百数十名の参加があった。

特筆すべき遺構は火薬庫の三方を廻り、その一部がアーチ状を描く精巧な石積みである。面が方形で奥にすばまる間知石を2段、さらにその上に細長い石を積み、溝を作る。溝の底には15cm大の扁平な丸石を断面凹状となるように3列に敷く。湿気を嫌う火薬庫内に雨水が入り込まない工夫と考えられる。今年は日露戦争開戦から百周年であり、今回の調査で日本の近代産業の一端が垣間見えたのではなかろうか。（永井晃子）



発掘された1939年以前の禁野火薬庫跡全景

上の山遺跡

第二京阪道路（大阪北道路）建設に伴い発掘調査を行っている枚方市と交野市にわたる上の山遺跡では、5月15日（土）に現地公開を実施した。段丘上では、弥生時代と古墳時代前期から中期の竪穴住居が検出されている。一方、谷では、弥生時代中期前半の土器溜まりをみつけている。谷は、古墳時代前期から飛鳥時代にかけて埋まり、平安時代以降、中・近世にかけて水田や畑などの耕作地として開発され、現在の景観に至っていることが明らかとなった。

現地公開は、調査地前を集合場所とし、現場の航空写真や個別遺構写真などを展示した。また、集合場所の南側に遺物展示場を設けた。13時と14時の2回に分けて、渡邊所長の挨拶に続き、後藤技師が遺跡の概要を説明した。参加者には、調査地内の竪穴住居址を中心に随時見学していただいた。

当日は天候にも恵まれ、地元の方々を中心に多数の小学生も参加した。また、報道提供を通じて北は長野県、南は愛媛県からも来られ、513名の参加が得られ、盛況な現地公開となった。（南出俊彦）



説明風景

上の山遺跡現地公開に参加して

5月15日（土）に行われた上の山遺跡の現地公開、あまり人出は多くないだろうと思っていましたが、現地に着いてびっくり。午後1時に始まった説明には、説明板の周りに押すな押すなの人ばかり。どこにでも出かけていく考古学ファンはもとより、ご近所らしき家族連れや杖をついて歩くのも大変そうなお婦人、また、先生に引率された小学生などが見学に来られ、発掘調査への関心が幅広い世代に広がっていることを実感しました。

実は私、関西で発掘調査現場をみるのは年ぶり。関東以北や南九州などでいくつか見た記憶と何かが違う…？土の色が違う！日々発掘調査に従事されている方々には笑われそうですが、黄色というか赤というか随分ハデな色の遺構面だなというのが最初の感想でした。

竪穴式住居跡の壁の周囲を巡っている凹みが溝に見え、いったい排水はどのようにしたのだろうか（自然にしみ込むのを待つ？どこか1箇所に溜めてくみ上げる？）との疑問には、担当者の後藤技師から実は土壁のままではなく壁材があったこと、その跡を掘ると溝のように見えること等を丁寧にご説明いただきました。ちなみに、後藤技師の周囲は常に質問者がおられ、順番待ちの状態でした。

2時間の公開で約500人の見学者があったとのこと。前日まで雨天が予想されていましたが、無事に曇天でもちこたえたことも見学者が多かった一因ではあると思います。しかし、京阪調査事務所の方々の公開に向けてのPRが実を結んだ結果と言えましょう。皆さまお疲れ様でした。

蛇足ですが、ソフトクリームをなめながら見学している家族連れがチラホラ（遺跡の隣のホームセンターで売っていることを帰りに発見。）遺跡の見学もちょっとしたレジャーになっているのでしょうか。（峠 美穂）

＜＜＜ 讚良郡条里遺跡出土の鳥形土製品 ＞＞＞

京阪調査事務所では平成15年度より寝屋川市新家所在の讚良郡条里遺跡（その7）の調査を実施している。今回の調査では、小区画水田・条里水田・島島等の弥生時代から近世にかけての耕作地に関連する遺構を主に検出している。他に弥生時代の掘立柱建物・竪穴住居、古墳時代の溝・ピット等も見つかっている。

今回紹介する鳥形土製品は、古墳時代の耕作層の下で検出した溝から出土した。水鳥を模した形状の容器と考えられ、朝鮮半島の鴨形土器を想起させる遺物である。この容器は須恵質であり、頭部は欠損していた。長さ12.9cm、幅6.8cm、残存高8.4cm、口径5.1cmを測る。容器の正面、首の付け根の直下に径9mmの孔を穿ち注口としている。尾部には、方形の粘土板を水平に貼り付けており、尾羽の表現であると考えられる。外面はナデにより丁寧に仕上げられており、口縁部から尾部側面にかけて自然釉の付着が認められる。

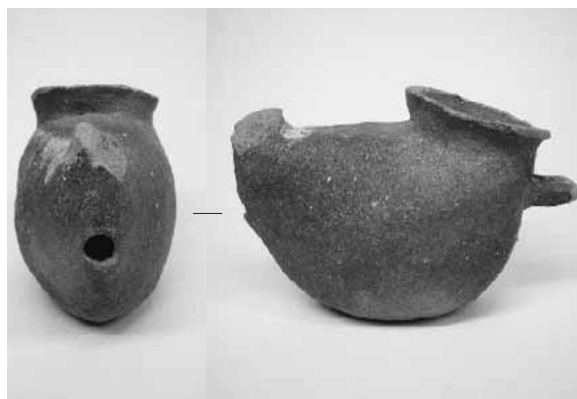
当センターの調査において、容器と考えられる鳥形土製品は、池島・福万寺遺跡、船橋遺跡、小阪合遺跡から出土しており、いずれも注口が設けられている。

池島・福万寺遺跡では口吻部に、船橋遺跡と小阪合遺跡のものは尾部に穿孔しており、本例とは穿孔箇所が異なる。首の付け根に注口を持つ例としては、福岡

県東下田遺跡の水鳥形土器が挙げられる。尾羽の表現も類似しているが、脚台を持つ点が本例とは異なる。

また、この鳥形土製品が出土した溝からは、他に布留式の新段階と考えられる甕や、祭祀に関連する遺物と思われる馬の下顎骨と剣形の木製品が出土している。この下顎骨は、出土状況から判断して、馬の頭部を故意に砕いて埋納したものと考えられる。

この溝は、現在調査中の工区まで伸びていることが予想される。今後は埋土の検討と、資料の増加による帰属時期や性格の検証を行っていきたい。（島田裕弘）



鳥形土製品

＜＜＜ 檀波羅密寺の文字瓦 ＞＞＞

泉佐野市若宮に所在する若宮遺跡で、南海本線連続立体化工事に伴う発掘調査を行なった際、「檀波羅密寺」と刻印された平瓦が出土した。

刻印された瓦は、調査区の南側に広がると考えられる敷地の、北東隅にあたるL字状に屈曲する2本の溝の中から出土した。溝は、当時の地割りにのっとり掘られており、幅2.5～3.5m、深さ0.3～0.6mを測る。文字瓦は、炭や焼土を含む埋土の中に、雁振瓦や鬼瓦を含む多量の瓦片、それに瓦器、青磁碗などの土器類とともに棄てられていた。これらの遺物から、溝は14世紀後半～15世紀前半に埋められたと考えられる。

刻印は、平瓦の凹面中央付近に陽刻されているが、縦に2列スタンプされたものも出土した。さらに、凹面だけでなく、凸面に逆文字で陰刻されているものも確認できた。

檀波羅密寺は、当遺跡から約1km東の同市中庄に平安時代末頃に建立された寺院とされているが、その初見は、文暦元（1234）年の『九条家文書』に求められる。また、正和5（1316）年に作成された「和泉国日根野村絵図」にはその存在が記されており、江戸時代に描かれた絵図にも、本堂のほか大門や観音堂などの施設と、大きな寺域をもつ寺として表されている。

さらに、当寺は1399年の応永の乱によって焼かれたことが、江戸時代の『拾遺泉州志』に書かれており、溝の埋没時期とほぼ一致することは興味深く、文字瓦が出土した溝で区画された敷地が、檀波羅密寺と密接な関係をもつ施設であったと考えられる。

なお、当遺跡のほかにも、当遺跡の北西約900mに所在する湊遺跡では、瓦当部に「檀波羅密寺」の文字が刻まれた軒平瓦が、上町遺跡や上町東遺跡からも「檀波羅密寺」と刻印された平瓦の出土がみられる。

（後藤信義）



「檀波羅密寺」と刻印された文字瓦

弥生文化博物館 夏の展示ご案内

平成16年夏季企画展示

小灘一紀絵画展 一日展会員賞受賞記念
7月17日(土)～9月20日(月・祝)

前期: 7/17日(土)～8/22日(日) 後期: 8/24日(火)～9/20日(月・祝)



日展会員賞受賞作品「めざめ」

小灘一紀氏は泉北在住の洋画家で日展評議員。人物画をはじめ風景、静物などを伝統的な技法の上に現代の心で表現する新しい具象絵画の世界を切り開いています。今回、小灘氏が第34回日展(2002年度)において日展会員賞を受賞したことを記念して、絵画展を開催いたします。きびしい

写実を主体とし、独自の詩情を謳いあげた作品の数々をごらんください。

◆企画展示講演会

8月3日(火) 小灘一紀「名画を見る眼Ⅰ」小灘一紀・真鍋井蛙「対談・熊谷守一の絵画と現代絵画」
9月12日(日) 小灘一紀「名画を見る眼Ⅱ」

◆第10回絵画コンテスト「卑弥呼の時代を描こう」 優秀作品展 8月1日(日)～22日(日)

◆平成16年秋季特別展「3・4世紀の倭人社会(仮称)」 10月5日(火)～12月5日(日)

詳しくは博物館までお問い合わせください。

電話 0725-46-2162

http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/

近つ飛鳥博物館 夏の展示ご案内

平成16年度夏季企画展

「旬 夏 秀 陶 関西編

—府立大阪博物館が集めた近世のやきもの—

明治から大正にかけて存続した「府立大阪博物館」が収



京都 京焼 色絵雉子香炉(17世紀)

集した陶磁器のうち、江戸時代に関西で生産されたものに焦点をあて、「生産の場」と「使用の場」に再構成して展示・紹介します。

期 間: 平成16年7月27日(火)～8月29日(日) 月曜休館

開館時間: 午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)

入館料: 大人400円/高校生・大学生・65歳以上の方300円/
中学生以下・障害者手帳をお持ちの方は無料

関連の催し

◇歴史セミナー 8月8日(日)

岡 佳子(大手前大学助教授)「江戸時代の関西のやきもの」

◇学芸員による展示解説 8月15日(日)・22日(日)・29日(日)

夏休みこども向けイベント実施中

◆夏休みこども博物館探検ツアー

8月1日・8日・22日・29日の各日曜日

◆夏休みこども工作室 8月13日(金)・14日(土)・15日(日)

※くわしくは、博物館までお問い合わせください。

問合せ先: 大阪府立近つ飛鳥博物館 TEL 0721-93-8321

http://www.mediajoy.com/chikatsu/

日本民家集落博物館 催しご案内(8月～12月)

◆民家模型制作 <8/18(水)～2/21(土)>

◆竹細工教室<8/28(土)～29(日) 10:00～12:00>

◆解説ボランティアによる民家解説

<9月～11月の各日曜日 13:00～16:00>

◆敬老の日特別優待 <9/14(火)～20(月)>

◆写真展「四国の民家」 <9/14(火)～20(月)>

◆なるせ女剣劇団民家集落公演

<10/3(日) 13:30～15:30雨天時10日>

◆昔話と紙芝居に親しむ会

<10/16(土)・11/20(土) 10:30～・13:30～>

◆はたおり体験

<10/23(土)～31(日) 10:30～15:00>

◆民家特別公開

<10/30(土)～31(日) 13:00～15:00>

◆民家の囲炉裏で暖まろう

—囲炉裏ばたでのお茶のサービスとわら草履体験—

<11月～来春3月の土・日・祝>

◆落語で笑うて民家「笑・会」民家集落秋の口演

<11/7(日) 12:00～15:00>

◆秋の企画展(展示室「カルチュアはっとり」)

山に生きる人々—宮崎県椎葉村の民家と暮らし—

<11/2(火)～12/25(土)>

期間中の土曜日、連続講座開催予定。

◆しめ縄作り教室

<12/12(日) 10:30～12:00>

上記の催しについて、詳しくは博物館へお問い合わせください。皆様のご来館をお待ちしています。

(TEL 06-6862-3137)